

平成 27 年度「オリンピック・パラリンピック教育モデル推進校」 事業実施報告書

- I スポーツへの誘い 自己肯定感の醸成
 II 障害者や高齢者への理解 共生社会の形成
 III スポーツへの関心や競技力向上 スポーツボランティアへの参画
 IV オリンピック・パラリンピックに向けた京都の伝統や文化等の発信
 V 児童生徒オリンピック、パラリンピックを通じた国際理解教育の推進

実践事業	【 Ⅱ 】	I～Vを記入して下さい。		
学校名	京都市立塔南高等学校	全校生徒数	752名	
実践学年、部、講座等	第3学年（男子110名・女子122名）			
目 標 (ねらい)	オリimpiズムの観点(○印) <重複可>	友情 ()	卓越 ()	尊重 (○)
	<p>1. 障がい者スポーツを通して個々の可能性を発見し、様々なことに対する偏見と誤解を払拭し、多様な状況に対応できる、考える力のある生徒を育てる一助とする。</p> <p>2. 車いす体験や交流試合、選手との対話を通じて障がい者に対する理解を深めるとともに、共生の大切さを学び、また自分の生き方を考える機会とする。</p> <p>3. 障がいのある人が住みやすくなるために、社会はどう変わらなければならないかを考える機会とする。</p>			
実践内容	車いすバスケットボールの選手の皆さんをお迎えして、お話を聞かせてもらったり、実際に車いすに乗ってゲームを経験したりすることによって、「共に生きる社会」についての考えを深めた。			
実施上の留意点等	特にありません。 ※実施上で工夫したことも記入してください。			
主な成果	アンケートの「受ける前の気持ちはどうでしたか」については、ほとんどの生徒が「楽しみだった」と答え、「体験形式の学習をどう思いますか」については、「とてもよかった又はよかった」と答え、「車いすスポーツ			

(分析結果) 体験講座があれば参加してみたいか」については、「参加したい又は参加してもよい」と答えた。
感想文は、長文のものが多くて到底まとめきれないが、多かった内容の一例をあげると「・・・お話を聞かせてくださった方が、良いことをする勇氣、悪いことをやめる勇氣、あきらめへんかったらやりたいことは叶うってことをおっしゃって、私も何でもやりたいことはあきらめずに頑張ろうと思った。どこかで困ってる人を見かけたら、声をかけてみる。それもひとつの勇氣やと思うから少しでも力になりたいと思う。・・・」というふうに選手の方々の姿を通して、大きな感動を手に入れた生徒が多かった。



※生徒の意識変化等の効果検証（アンケート結果表やグラフ等の掲載でも可）

※オリンピズム（卓越、友情、尊重）を踏まえた教育活動の成果

主な課題等

特にありません。